

## 2017年5月実績概要（メモ）

（2017. 6. 15）

定修の本格化に伴い生産動向としては不揃いとなったが、増加品目が過半を占める。

### 1. 生産動向

イ) エチレン 535,900トン

前月比                   ▲ 2.4% (▲13,500トン)  
前年同月比           + 5.8% (+29,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	▲ 6.0 %	+ 6.3 %
能力増減	-	+ 0.2 %
稼働率変動	+ 0.3 %	▲ 0.7 %
生産増減率	▲ 2.4 %	+ 5.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.2%→当月96.5% ←前年同月97.1%  
定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加に加えて定修規模差からPS、EO、EG、SBR、BR、トルエン、キシレンなどの10品目がプラス。HD、PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、ANなどの7品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、PP、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、トルエン、キシレンなどの12品目がプラス。HD、SM、ANなどの5品目はマイナスとなった。

### 2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、稼働日数増があったが、HD、PPでは定修規模差と稼働率要因からマイナスとなった。LDでは日数増と定修規模差がほぼ相殺し前月並み、PSは定修規模差等からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、PP、PSでプラスとなった。HDは定修系列数の増加と稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、連休に伴うユーザー側の稼働状況の差に加えてこれまで比較的出荷が堅調だったが、当月はLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比では、HD、PPでは射出成形分野、中空成形分野の出荷増加が寄与しプラスとなった。一方、LDでは主力のフィルム分野の減少影響が大きく当月はマイナス、PSでは本年第1四半期までの出荷が例年に比べて多かったこともあり前月に続いて当月もマイナスとなった。

ハ) 輸出

定修実施プラントが多く、数量としては低レベルとなっている。前月比ではLD、PSはプラス、HD、PPはマイナスとなった。前年比では、HD、PSはプラスとなったが、LD、PPでは大幅なマイナスが依然として続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PP、PSで増加し、HDは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LD、PP、PSは上昇、HDは低下した。在庫水準としては、LDはやや高め、HD、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LD	+21,500	3.0	3.1
HD	▲13,100	2.8	2.5
PP	+18,700	2.4	2.6
PS	+8,100	1.4	1.6

以 上